リハビリテーション科 この1年

ＰＴ 坂本　雅則　・　ＯＴ 窪田　博文

今回はこの1年で僕の記憶に残っている思い出を綴ってみたく思います.

５月:花見. スタッフ10名, 実習生５名. 残念ながら雨のため, 車庫で開催. 寒い寒い.

８月：上川北部地域リハビリテーション広域支援センターとして道より指定を受ける. 研修会の開催, PT・OT・ST勉強会, 講師バンクを３大事業と決定し, 概ね予定通り事業が遂行されていると思います. 何よりもこの事業を通して地域のPT・OT・STが親しみを持ち, 日常業務の連携を図りやすくなれればそれでよいと考えています.

10月：大阪ボバース記念病院副院長による片麻痺治療見学. ケースは視床出血であり, しびれをとってほしいの要求通り完全に消失させたり, 四肢の感覚器に刺激を入れ中枢神経系がどう反応で返すのかをやりとりしていました. 常に脳, 脊髄と交信しながら治療されており, 脳の治療は発展し続けており奥深く, 強い感動を覚えました. (ボバースアプローチはエビデンスではグレードCです.)

11月：病院機能評価の再受審. ５年前受審の時に評価されたことは, 今回はあまり意味をなさず, 言わゆる山が外れた・・・でした.

11月：幌加内温泉キャビンで観楓会. 水道もトイレもTVも何もない所だけに, スタッフ皆でよく語り合いました. ハリセンゲームは, もうしたくありません. 帰りによった士別の焼鳥屋は, 燻り臭くてくせになってます.

12月：名寄市病医誌論文賞の受賞. 昨年, 当科では惜しくも受賞できなく悔しく思い, リベンジを目的に投稿しました. スタッフの協力もあり受賞というリベンジを達成でき, 嬉しさ半分, 安堵感半分という気持ちです. これに満足する事なく, 自分の次の目標に邁進します.

来年の当科目標は年々事業やスタッフなど規模が大きくなるので, 足元をすくわれない様, むしろ固める年にしたいと考えています.

OT部門では, 久々に週間プログラムの変更を行いました. 2004年４月より「ソフトボール」を新設しました. 秋・冬期は, ソフトボールは休止とし, 代わりに「ミニバレー」を行っています. OT主催の年間レクとして, 「百人一首大会」「麻雀大会」などを行いました. 「クリスマス会」などの大きな年間行事を合わせると, ひと月に一度は, 何らかのレクがある仕組みが出来ればと考えています.

さて, OT部門では, 2005年４月から週間プログラムの大きな変更を考えています. 国の方針からも, 早期退院・社会復帰促進対策が必要といわれています. 活動, 余暇・趣味の場を提供する作業種目と, 退院, 在宅支援を提供する作業種目を機能分化させる予定です. 毎日の同じような業務を何となくこなして, それで終わっていたのではないか？反省すべき点が多々あります. ひとりひとりのOTスタッフが「すべき事」を認知し, 行動化し, 常に向上心を持つことが大事だと考えています.

OT部門では, 患者さんが「堅苦しく」ならないように, 「OTは, リハビリである」ことを前面に出してきませんでした. OTの効果の実証と他部門との治療共同体をつくるためにも, これからは, 「OTは, リハビリである」ことを打ち出していく必要があります. そのために, 「作業科学」をしっかりと勉強していきたいと思っています. それは, 「作業」と「脳」がどのように結びついているかを勉強することです. 日常のこなさなければならない業務に追われ, 「すべき事」を見失いがちになったり, 自信が揺らぐ事もありますが, 最近, アメリカのOTR, Mary Reillyが1962年に行った講演題目の言葉に力づけられました. その言葉を噛みしめながらOT部門のこれからを展開していきたいと考えています. 「OTは20 (21) 世紀医療の偉大な観念の１つになりうる」